

アクティブ・ラーニングでつくる探究的な学習

7月16日（土）に「現代的学校教育の課題解決シリーズ 2016」の学び合う仲間による教員研修リレー講座の第6回が行われました。今回は、上越教育大学大学院准教授の松井千鶴子（総合的な学習）先生による、「アクティブ・ラーニングでつくる探究的な学習」と題して、ワークショップ型の講義を取り入れた、アイスブレイクピラミッドチャートを使った群馬県のお薦めのお土産を考える小集団学習による学び合いから始まりました。現場の実態を踏まえ分かりやすく説明しながら、白海老せんべいのお土産持参の楽しい一時を過ごすことができました。



<参加者の感想から>

- アクティブ・ラーニングについて、授業のビデオから気づかせていただいた。それを基に話し合ったことで考えがさらに深まり、まさにアクティブ・ラーニングでした。
- アクティブ・ラーニングという言葉がどのようにして出てきたのか。アクティブ・ラーニングでできる総合的な学習の進め方まで、幅広く研修できた。3～4名の班で話し合い、それを発表し合い、自分で考え直すなど、アクティブな研修ができました。
- アクティブ・ラーニングの具体的な姿を紹介して頂き、大変勉強になった。ここ数年でアクティブ・ラーニングという言葉がたくさん聞くようになり、現場では「また何か新しいことをやらなければならないのか」という不安がひろがっています。本日の講義を受け、「新しいことではなく、これまでの実践をさらに進化させることです」と伝えたいと思います。
- アクティブ・ラーニングは捉えにくいところもあったのですが、実際に子どもの姿を見て考えることができ、さらに意見交流もできたので、頭の中で具体的になりました。
- 講義だけでなく、少人数で話し合ったり、発表したりまさしく、能動的な活動が体験でき、楽しかったです。ぜひ、このような思いを子どもたちにも味わってもらえるような授業を目指したいです。
- アクティブ・ラーニングという言葉だけが一人歩きしていて、どんなことなのかよく分からなかったのですが、具体的に総合的な学習の時間を結びつけて説明していただいたので、理解が進んだように思います。